

麻生区区民会議 第12回 市民活動・地域活動の活性化部会 議事要旨

- 1 開催日時：平成27年11月17日（火）午後3時00分～午後5時00分
- 2 開催場所：麻生区役所第5会議室
- 3 出席者：〔専門部会委員〕
岡倉委員、高橋委員、石井委員、石川委員、植木委員、小尾委員、高倉委員、林委員、宮本委員
（欠席）横田委員
〔事務局〕 白石、麻生 〔コンサルタント〕 中島
- 4 傍聴者 0名
- 5 連絡事項
 - ・ 部会長より企画部会の報告。
フォーラムについて検討したところ、当部会が推薦した藤原氏で決定した。
前期よりも区民会議に寄せられる意見が増えている。
 - ・ 前回の会議についてコンサルタントが説明。
- 6 議 事
 - (1) 「健康づくりのつどい」意見交換の分析について
コンサルタントより結果について説明あり。
「ボランティアに関心がありますか」の質問では、「ある」が88.2%、「ない」が11.8%。
「ボランティアに参加したことがありますか」の質問では、「ある」が68.6%、「ない」が31.4%。
「ボランティア活動に参加したきっかけは何か」、「どんなきっかけがあれば参加しますか」という質問では、「友人知人に誘われて参加した（誘われれば参加したい）」に多くの意見が集まった
「気軽に参加できるようになるためには、何が必要だと思いますか」という質問では、「効果的な情報発信」「背中を押す仕組み」との意見が多かった。
このことから、ボランティアをしている方に向けて、友人知人を誘いましょうとチラシの配布等が1つの手法として考えられる旨、説明あり。
 - ・ ある程度、予想通りの結果が出たと思う。
 - ・ ボランティア団体が出している情報が、受け手の区民に伝わっていない。血管にコレステロールが溜まり、血の流れが悪いイメージ。詰まりの解消が必要。
 - ・ あと一押しが重要、講座からボランティアの養成講座、ボランティア活動へつなぐもの。それが知人友人からの誘いなのかもしれない。
 - ・ 健康づくりのボランティアを募集したところ、定員30人中5名しか集まらず、急きょ知り合いに声をかけた。「知っている人から言われて」という点は強いと思う。いこいの家のすこやか活動でも、身近な人から連携を図っている。
 - ・ 横につなぐ、連携という点では地域コーディネーターという役割が必要。（現在は、市民交流館やまゆりをベースに審議が進められている）
 - ・ 単にボランティアの講演会や養成講座をやるだけでは意味がない。身近な人の誘いから講演や養成講座へと繋げる道筋と、受講後のフォローも考えて開く必要がある。
 - ・ やまゆりのアクティブセミナーは、受講後の活動の場も考えて、企画している。
 - ・ 仕事で忙しい現役世代にボランティアを呼びかけるのは難しい。やはり人材はシニア世代か、子育てを終えた世代になると思う。
 - ・ 強い意思を持った人が中心となって周囲を引っ張っている。

- ・みんな一緒に年を取るのだから、若い世代を入れて団体の存続を図るという考えよりも、常に団体の解散と新設を促した方が、新陳代謝という面ではよい。
- ・やまゆりは、理事に定年制（75歳）を設けている。1つの形に拘るのではなく、新たなリーダーを養成している。
- ・たとえ高齢の方でも、いつまでも社会とつながっていたいという気持ちの人が多と思う。
- ・老人福祉センターのヒアリングの際にも感じたが、団体と人材との最適なマッチングが思い浮かばない。
- ・背中を押す＝「知人・友人に誘われて」ということで話が進んでいるが、地域の中に知人が多い女性の話ではないか。男性と女性では、背中への押し方は違うのではないか。
- ・先日、しんゆり映画祭のボランティアに参加したが、女性の参加者は皆、知人を通じての参加であったが男性陣は自ら手を挙げての参加であった。
- ・男性を参加させるには妻からの一押しが必要だと思う。
- ・男性も、何か資格や特技があると、教えたいという気持ちもあり、外に出る。
- ・特技がないから、ただリーダーについていきたい人もいる。
- ・ボランティア週間やフェスタがあれば、ボランティアを知る機会になるのではないか。
(コンサルタントより、そのようなフェスタを他所で開催したことがあるが、実際集まるのはボランティア関係者で一般の方はなかなか来ない、ボランティア団体同士の交流会になってしまうのが実態との説明あり)
- ・次のステップにつながる講座があちこちにあるとよい。多様な養成講座から選択できるような形。ボランティアの種類にも事務からカメラマン、賑やかし役など様々ある。区役所、やまゆり、市民館にその中間的な支援を担っていただけるとありがたい。
- ・まだまだ活躍する場がある。もったいないと思わせるような仕掛けが必要。
- ・65歳時に配布される福寿手帳に併せて情報提供する等の仕掛けはどうか。
(→手帳を実際に見ている人は少ない。自分を高齢者と思いたくないという意識がある。)
- ・やりたいと思う気持ちがあれば、情報はなくても取りに行くと思う。
- ・冒頭の話でも出たが、「流れ」という切り口が一つのポイントになるのではないか。

(2) 区民会議フォーラムについて

フォーラムの講演内容、時間について審議。「健康寿命を延ばすには？」をテーマに、健康寿命とボランティアに重点を置いて、講演してもらう旨、講演時間は、1時間半＋質疑応答30分を目安に依頼する旨、確認した。

(3) 提言に向けてのスケジュールについて

2月の全体会に向けて、提言骨子案を作成していく旨、確認した。

提言には、全体のイメージをまとめた「政策提言」と、チラシ作成やイベント開催等の具体的手段である「事業提言」の2種類がある旨、部会長が説明。その違いを意識して、審議を進める旨確認した。

(4) その他について

- ・世田谷ボランティア協会（理事長：興沼氏）が運営する世田谷ボランティアセンターを委員が有志で視察する旨確認した。
- ・共助の取組である「ニッポン・アクティブライフ・クラブ」の取組事例を新聞記事で確認した。